

## ごあいさつ

代表世話役 西本 孝

日本自然保護協会岡山県自然観察指導員連絡会は、再会後の新しい年を迎えました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

新年会を1月28日に、また、2月11日には錦海塩田跡で第3回目の自然観察会を実施しました。この自然観察会の様子は、後半に詳しく報告していただいています。

年次総会は、毎年6月の第3土曜日に行うことになっています。今年の年次総会は6月17日(土)ですので、場所や時間などの詳細を確認してください。この年次総会から新しい年度(2017年度)が始まります。2017年度の予定はこの総会で、皆さんの合意によって決定されます。すでにいくつかの予定の案が出ていますが、皆さんからの提案をお待ちしています。

また、今年11月にはNACS-Jの自然観察指導員講習会が、昨年に続いて、岡山県で実施されることが決まりました。この会も運営に協力することにしています。それに先立つ8月には、中国地方5県の交流会も予定されています。昨年の交流会では、自然好きはもちろん、辛党(酒好き)、甘党など他県の人たちの積極的な動きに圧倒されました。

会員の皆様と一緒に、自然観察を通じて自然の不思議さを実感しながら、充実した楽しい時間を持ちたいと思っています。皆さんの参加をお待ちしております。どうぞよろしくお願いいたします。

## 年次総会と第4回自然観察会の案内

矢野

●開催日時:2017年6月17日(土) 10:00~15:00

●集合場所:岡山市操山里山センター1階 会議室  
岡山市中区沢田 649-2

●アクセス:

《岡電バス》岡山駅または天満屋バスステーションから岡電バス岡電高屋行きに乗車

・岡電高屋下車→里山センターまで沢田橋を渡って徒歩30分

《宇野バス》岡山駅または宇野バス表町バスセンターから宇野バス瀬戸駅行ネオポリス行または片上方面に乗車

・高屋または二本松東下車→里山センターまで沢田橋を渡って徒歩30分

《自家用車》

・国道250号線百間川橋東詰め交差点を南に入り百間川沿いを走り、沢田橋を渡る(ただし、駐車場に限りがあります)

●スケジュール:当日の予定(案)

10時 総会

10時30分「操山公園里山センターの取り組みについて」(熊瀬所長)

11時 操山散策道で自然観察会(山崎さん)

12時 三敷神社跡にて昼食

12時45分引き続き操山散策道で自然観察会(山崎さん)

14時30分 閉会、解散

## 中国地方5県の自然観察指導員交流会の案内

交流会が山口県周防大島で実施されます。希望者は西本(裏面の住所)まで連絡してください。詳細をお知らせします(締切7月末日)。開催日:2017年8月26日(土)、27日(日)(1泊2日)。

## NACS-J 自然観察指導員講習会の案内

日本自然保護協会の主催する講習会が、今年も岡山で実施されます。岡山連絡会も運営に協力させていただきます。参加希望者は西本(裏面の住所)まで連絡してください。詳細をお知らせします。開催日:2017年11月11日(土)、12日(日)(1泊2日)、開催地:国立吉備少年自然の家。

2月11日、錦海塩田跡地および牛窓オリーブ園で探鳥会が開催されました。

強い冬型の気圧配置による強風の中での観察会となりましたが、講師の丸山先生を含め9名が参加し、午前中は車で移動しながら塩田跡地で探鳥、その後牛窓オリーブ園内に移動して遊歩道を歩きながら探鳥、午後からは丸山先生による錦海塩田の歴史について勉強しました。

丸山先生からのご挨拶(写真1)の後、水門から観察会を開始しました。まずはオオバンが出迎え、続いてカワセミ(写真2)が現れ、幸先の良い観察会となりました。

その後、堤防の中ほどへ移動して観察しました(写真3)。ここでは、ツクシガモ(写真4)をはじめとして、ヒドリガモ、マガモ、ハシビロガモ、オナガガモなどのカモ類、そして、アッケシソウやカヤネズミの巣(写真5)を見ることができました。車に乗り込む寸前には、後方の堤防の海側からミサゴ(写真6)がさっそうと現れ、過ぎ去っていきました。

丸山先生からは、チュウヒの繁殖行動が見られないこと、ハイロチュウヒの飛来が1羽にとどまっていることなど、ソーラーパネル設置による影響ではないかとの見解をお話いただきました。今回は会うことができませんでしたが、キジは逆にパネル設置のおかげで禁猟区となったことから、増えているとのことでした。



写真1. 丸山先生の挨拶。

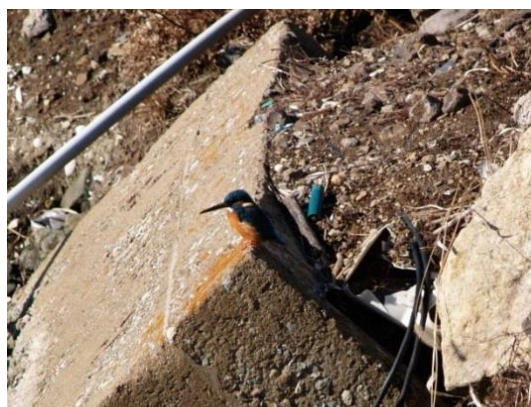


写真2. カワセミ。



写真3. 塩田跡地での探鳥。遠くの水辺で見られた、多様なカモ類の集団を観察した。



写真4. ツクシガモ。



写真5. カヤネズミの巣。



写真6. ミサゴ。



オリーブ園内では、ジョウビタキ（写真7、8）が多くみられ、シロハラ（写真9）、ヒヨドリやアトリ（写真10、11）、ツグミ（写真12）と共に、カラスと一戦を交えた後にトビが飛び回り（写真13）、林内の歩道上には小鳥のはねが散乱していました（写真14）。そこはカラスが入っていた場所でした。芝生の上にはホオジロとアトリがしきりに種子を探している（写真15）など、多くの鳥類のほか、外来種であるダイオウショウ（写真16）や在来種であるカンサイタンポポ（写真17）などの植物や正体不明の卵の殻など、とても多くの動植物を見ることができました。

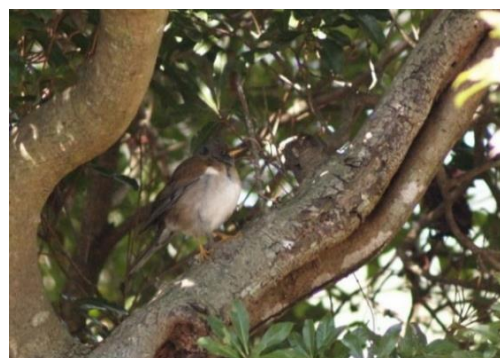
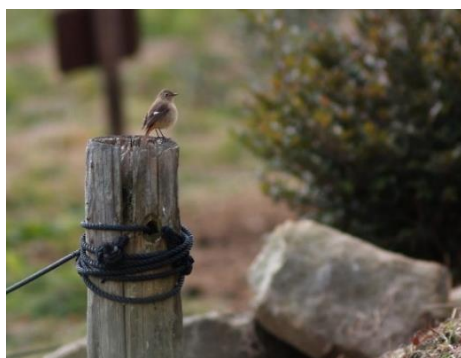


写真7. ジョウビタキ（♀）.      写真8. ジョウビタキ（♀）.      写真9. シロハラ.

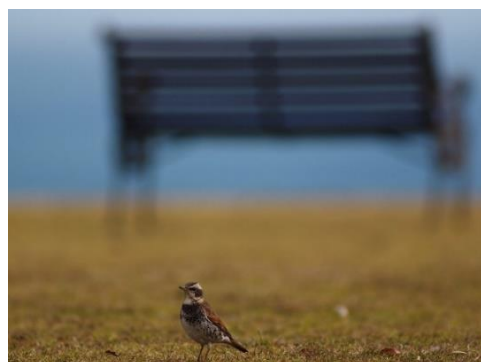


写真10. アトリ                      写真11. アトリ                      写真12. ツグミ.



写真13. カラスとバトルしたトビ.      写真14. 林内の遊歩道上に落ちていた小鳥のはねの残骸.



写真15. ホオジロとアトリ.      写真16. ダイオウショウの球果.      写真17. カンサイタンポポ.





写真18. 海が見える暖かい部屋で鳥合わせ.



写真19. 丸山先生の話に聞き入る参加者.

午前中に見た鳥合わせの後、昼食をはさんで午後からは、錦海塩田跡地の歴史について学びました。遠浅で海藻類が多く、奈良時代には「おほくの海」と呼ばれ、もともと豊かな里海だった錦海湾周辺では地形を利用し小規模な干拓地が作られてきました。そして、昭和34年から本格的な堤防開発が行われました。平成14年には塩業が廃止となった後、平成22年に瀬戸内市が塩田を取得しました。丸山先生が中心となって野鳥の会岡山県支部で野鳥を初めとする動植物の総合調査を行い、「錦海塩田跡地自然環境調査報告書」を作成するとともに、平成25年10月には自然保護協定の締結に至りました。この報告書は販売されていますし、今回丸山先生から自然保護センターに寄贈されましたので、興味ある方は自然保護センターでぜひご覧ください。そして現在、丸山先生はチュウヒを中心とした保護活動を行っており、少しでもこの場所が野鳥の楽園として残されるように市や施工業者に対し協議、提案などの働きかけを行っているとのことでした。

今回の観察会で確認された鳥類は全部で34種。冷たい強風の吹く中、約2時間という限られた時間の中での観察会でしたが、予想を上回る数の野鳥に出会え、参加者は一応に満足された様子でした。

個人的には野鳥を探鳥するのは初めての経験で、野鳥の種類は全く分かりませんでした。知識のある方たちと散策すると、これだけ多くの発見があるものだと言き驚きの連続でした。次回は6月17日に岡山市操山里山センターで行われる年次総会と第4回自然観察会が行われます。担当は矢野さんです。よろしくお願いいたします。



写真20. 牛窓オリーブ園からの錦海塩田跡地を臨む。ソーラーパネルが半分以上を覆う計画だ.

岡山県自然観察指導員連絡会へのお誘い

西本

日本自然保護協会の自然観察指導員で、岡山県連絡会に参加を希望される方は連絡してください。会員になると、今後も連絡会通信などを通じて会の情報をお知らせします。申込の連絡先は西本まで。〒701-2141 岡山市北区牟佐944-1 西本 孝。Eメールは [taknishi@js4.so-net.ne.jp](mailto:taknishi@js4.so-net.ne.jp)